

Lives

OKamura

はたらき心地を、カタチに。

私たちは、めまぐるしい変化のなかを生きています。

昨日まで当たり前でなかったものが

これからのスタンダードになるかもしれない、今。

これまで一般的とされてきた画一的なオフィスも、
作業や目的に応じて働く場所を柔軟に選択できる
多様性のあるオフィスへと変わりつつあります。

働く人のことを考え、働く人の生き方を想うことで
働き方をより良く変える、そんな働く環境づくりをしていきたい。

ときにはリラックスして、ときには集中して。

カフェのように雰囲気や居心地も良い。

しかも、働く場所としての機能性や利便性も兼ね備えている。

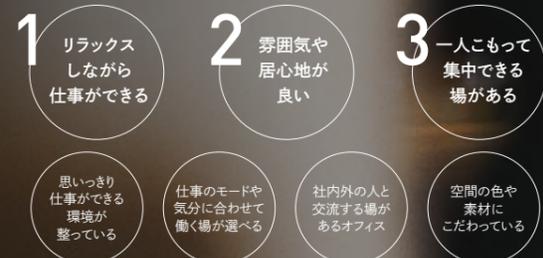
一人ひとりが、のびのび働き、新たな価値を生み出していくには、
そんな「はたらき心地」が必要なのです。

『Lives(ライブス)』

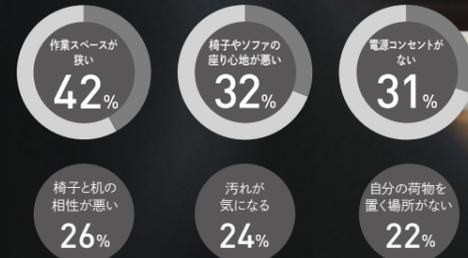
新しいファニチュアシリーズの誕生です。

オフィスワーカー1,000名を対象に“はたらき心地”についてアンケートを実施。

効率性・創造性を高め、自分らしさと能力を思いのままに発揮し、
健康的に働くためのオフィスに求められる条件トップ3。



居心地の良い「カフェ」や「コワーキングスペース」でも
仕事をする面では不満があるようです。



出典：株式会社 岡村製作所

Lives

会社にとって必要不可欠な、一人ひとりの力。

働く人の[行動・感性・価値観]の3つの要素から

「はたらき心地」にこだわりました。

Natural-being

ナチュラルビーイングとは、働く人の状態を指し、「自分らしさと能力を思いのままに発揮している状態」を意味します。それは組織が個人を生かすための重要な概念です。

組織の中で、個人の創造的な「感性」を豊かに刺激すること、多様な「価値観」を尊重すること、効率的な「行動」を支え、促すこと。ナチュラルビーイングに働くことが企業に新たな価値と発展をもたらす基盤となります。



Lives Policy **1 | 行動を促す**

誰でも扱いやすく、使い勝手が良いから、
どんなシチュエーションでも気持ち良く
快適に働ける。

座り心地も大切です



居心地だけではなく、働く場としての
機能性も求められています。

出典:株式会社 岡村製作所

Lives Policy **2 | 感性を刺激する**

ワクワクやドキドキが感じられる環境こそ
創造性を育み、効率性をもたらす。
だからこそ、私たちのオフィスは、
素材の力で感性を刺激する場所であってほしい。

CMF

オカムラでは人間と家具の接点となる“素材の力”に注目
しています。働く人、学ぶ人の個性が尊重される時代に
なり、“空間を選択”できることが重要なキーワードとなっ
ています。このような時代には、個性溢れ、人間の感性を
刺激する「CMF(Color・Material・Finish)」が
求められています。

6割以上の人を感じています



1,000名のオフィスワーカーへのアンケートの結果、6割
を超える人が働く場所には“色彩”だけでなく、素材の
“質感・触感”も重要だと感じていることがわかりました。

出典:株式会社 岡村製作所

Lives Policy **3** 価値観を尊重する

仕事のモードや、気分に合わせて、働く場所が選べる。

自分のペース、チームのペースで働いてほしい。

Innovative



Fountain

ひとりで深く考える

新しい仕事を発想して形にする。



Forum

まわりの意見を取り入れる

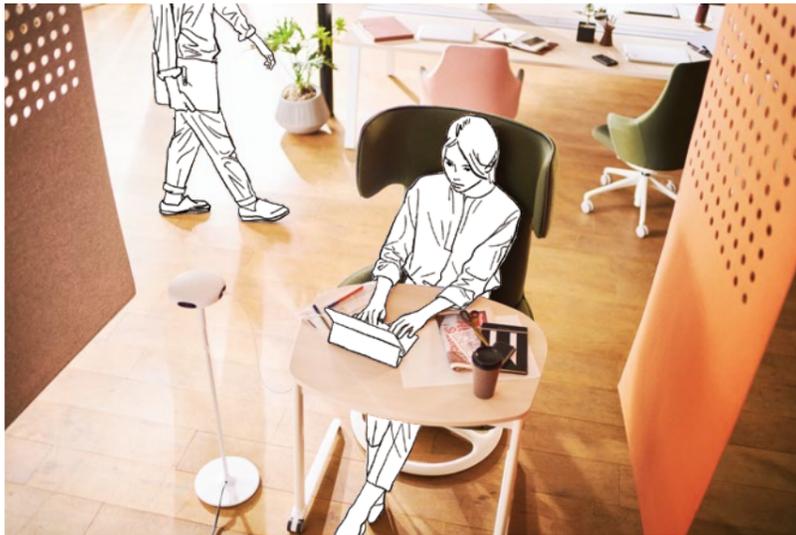
通りすがりの人とも知恵を出し合い、互いの成果を高める。



Studio

仲間とつくりあげる

アイデアを出し、選りすぐりの案にまとめる。



Capsule

ひとりで仕事に没頭する

今やるべき仕事を迅速にしっかり仕上げる。



Base

仲間の気配を感じ取る

最新情報を共有しながら、自分の仕事を遂行する。



Pit

仲間に素早く確実に伝える

お互いが知っておくべき情報を素早く報告・連絡しあう。



Routine

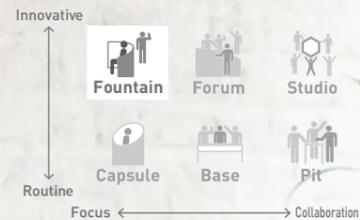
Focus

Collaboration

Fountain ひとりで深く考える

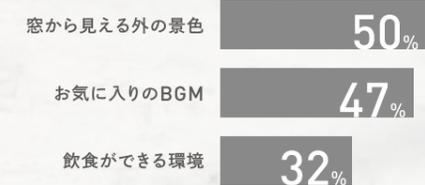
空間の
ポイント

- ・日常の風景と差をつける
- ・自分で環境を調節する
- ・感性を刺激する素材感



集中作業に入りやすい環境

集中して物事を考えようとする時、それを促進してくれる環境要素は何かを調査しました。「窓から見える外の景色」、「お気に入りのBGM」、「飲食ができる環境」、という意見が多く見られました。日常働いているのとは違う環境で、身も心も開放して思考の範囲を広げようとする思いがその背景にあるのでしょうか。



出典：株式会社 岡村製作所

Forum まわりの意見を取り入れる

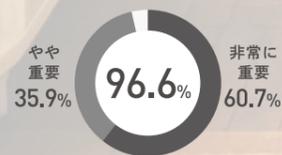
空間の
ポイント

- ・偶発的な出会いが期待される誰もが集まれる仕掛け
- ・カジュアルな空間が発言を誘発
- ・アウトプットが周囲からよく見える



インフォーマルなコミュニケーション

予定していない出会いから発生する会話（インフォーマルコミュニケーション：IFC）が仕事を進める上で有効だと言われています。一般社団法人ニューオフィス推進協会の調査結果では、96.6%の人がIFCを「重要」と認識しています。

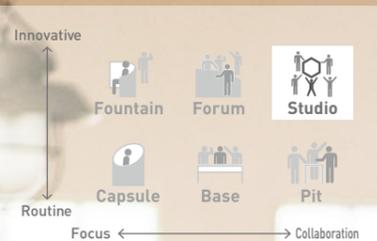


出典：一般社団法人ニューオフィス推進協会

Studio 仲間とつくりあげる

空間の
ポイント

- ・自分たちでシーンを変えることができる家具
- ・行動しやすい環境づくり
- ・アウトプットのためのツールが豊富



アイデアがたくさん出る環境

アイデアがたくさん生まれる環境を考察するために、白い壁で囲まれたかたい雰囲気と少しカラフルでカジュアルな内装の部屋を用意し、その中で10分間のブレインストーミングをする実験を行いました。その結果、カジュアルな環境の方がかたい雰囲気よりも4割ほど多くのアイデアが表出されることがわかりました。

かたい雰囲気 55.1件

カジュアルな雰囲気 79.1件

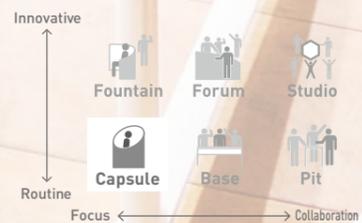
出典：株式会社 岡村製作所



Capsule ひとりで仕事に没頭する

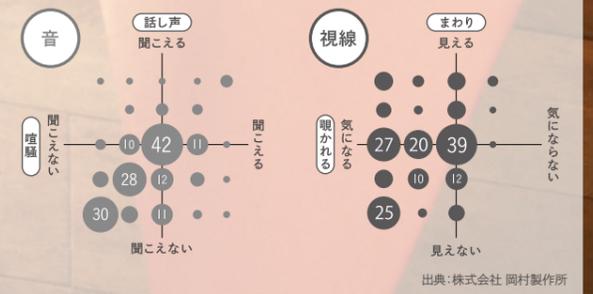
空間の
ポイント

- ・周囲の音と視線を遮断
- ・周りから声をかけられない運用づくり
- ・こもっている雰囲気



個人作業時に集中しやすい環境

定型業務において作業に集中したい時、どのような作業環境を想定するかを調査したところ、周囲の「音」に関しては、話し声も、意味をもたない騒音も聞こえないことを望む人が多くいました。また、視覚的には、他者から覗かれることに気にする人が多く、自分からも周囲が見えない環境が望まれていることがわかりました。



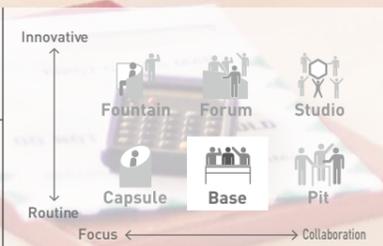
出典：株式会社 岡村製作所



Base 仲間の気配を感じ取る

空間の
ポイント

- ・一体感を感じる環境づくり
- ・スピーディーにコミュニケーションできる環境づくり
- ・広い作業面で機能的に働ける



自席の環境を自由に調節したい

仕事を行う自席の環境を自らの手で調節することを望んでいるか否かを調査したところ、「調節したい」と答える人が9割近くを占めることがわかりました。調節することによる効果を聞くと、9割を超える人が「快適性」と答え、3人に2人は「生産性向上」を期待していました。

やや
そう思う
40.5%



非常に
そう思う
47.1%

自席の環境を調節できる
ことによって期待する効果は?



出典：株式会社 岡村製作所



Pit 仲間に素早く確実に伝える

空間の
ポイント

- ・いたるところで即コミュニケーションが取れる環境づくり
- ・立った状態で短時間に打ち合わせができる
- ・気分を変えることができる



姿勢とアイデア量の関係

多くの人は会議を無駄なものと感じ、不満を持つワーカーも多いようです。そこで注目したいのが「立ち会議」。提示されたテーマについて5人1チームで10分間アイデア出しを行って見たところ、立っている方が座っているよりもアイデア量が増える傾向がみられました。

座位 100%
立位 120%

*数値は座位のアイデア量を100(%)とした場合の比率。各姿勢ともテーブルは無し。

出典：株式会社 岡村製作所

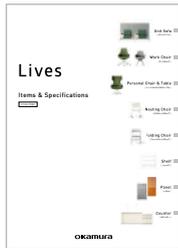
Lives

まるでカフェのようにリラックスできる居心地の良さと
集中して働くための機能も備えた空間を実現するために。
『Lives (ライブス)』は、豊富な製品ラインナップで
理想のオフィスづくりをサポートします。

はたらき心地を、カタチに。



Product Book



Price List



Special Site

<http://www.okamura.co.jp/product/others/lives/index.html>



OKAMURA

ホームページアドレス <http://www.okamura.co.jp/>

お問い合わせ・ご相談は
お客様相談室へ

フリー
ダイヤル  **0120-81-9060**
受付時間 9:00~17:20 (土・日・祝日を除く)

株式会社オカムラ

お問い合わせ・ご相談は、下記へ

2018年6月 発行

オフィス製品部 YOCA27-861 P.AX '18-6